

## 食中毒を起こす A 型・E 型肝炎ウイルス

肝炎ウイルスは、B型・C型肝炎ウイルスが有名ですが、食中毒を起こすA型・E型肝炎ウイルスがいることをご存じですか？ B型・C型肝炎ウイルスは血液や体液を介して感染します。40代以上の方なら、学校の集団接種時の注射針の使いまわしによる感染事例を思い浮かべるかも知れません。

これに対してA型・E型肝炎ウイルスは、水や食品などを経て口に入ることによって感染します。感染経路が一般的な食中毒と似ているため、「食中毒を起こすウイルス」として分類されています。このウイルスの主な感染経路は二つ考えられます。まず一つ目は感染者の糞便に含まれているウイルスが水、野菜、果物、魚介類などに混入あるいは付着して口に入り感染する経路です。これは同じ「食中毒を起こすウイルス」に分類されるノロウイルスの感染経路と非常によく似ています。もう一つは、十分に加熱されていない、豚肉や野生の鹿肉などを食べて感染する経路です。これは、腸管出血性大腸菌の感染経路とよく似ています。

このウイルスの潜伏期間は一か月前後と長く、主な症状として発熱、全身の倦怠（けんたい）感に続き、肝炎による黄疸（おうだん）が現れます。高齢者等では劇症化することがあり、特にE型肝炎ウイルスは妊婦の方に注意が必要です。

以前は、流行している海外への渡航か、流行している国から輸入された生鮮食品の喫食が感染源となる輸入感染症と考えられていましたが、現在では国内の豚やイノシシ等にも抗体が検出されるなど、日本国内にも土着化していると言われていています。最近では、野生鳥獣の肉を使ったジビエ料理が人気になっていますが、肉はよく火を通し、血液がついたままな板や皿は十分洗浄しましょう。